

平新報

發行所 平新報社
編輯 山野邊庄吉
印刷 平新報社
電話 平三丁目拾
五號十二字路一行
廣告料 一回五十錢増
場所指定倍増
一部 定賃金拾錢
送料 五厘

謹賀新年
高久病院
平町田町

衆議院議員
鈴木辰三郎
平町一丁目
常盤屋時計店

明治生命保險平代理店
明治火災保險平代理店
大一屋善吉
平町二丁目

年頭感 小檜山久作

平町で二度目の新年を迎分御國の爲めに駆け廻つた
へることになりまし。職らさぞ痛快の事であらう、
員生徒は私を理解して呉れなご子供のやうな考へも
父兄並に地方有識の方々は浮び出たのでありまし、
御同情下さるので、これ迄 滿洲國では目下、日本の資
大した氣遣い思ひもせず勤本と知識と技術とを最も必
務の出来まし事を、先づ 要とすといふことであり
年頭に當つて本紙を通じてまし。

石城郡聯合青年團長
小檜山久作
平町 齋藤 榮一
平町 山崎 宣吉
平町 梶原 富次
平町 桐谷 文雄
平町 加藤 丈夫
平町 平旅館組合
平町 大橋 秀冬

折蒲 平町一丁目
仕出し 藤 寅
菊地 寅次郎
和久井屋漆器店
平町一丁目
坂本 紙店
平町二丁目
谷 口 樓
平町二丁目
三井タクシ
平町二丁目
西村屋藥局
平町二丁目
皆川 新一
平庶民金庫
平町二丁目
中野洋品店
平町二丁目
高島屋洋品店
平町二丁目

堀 藥 局
平町二丁目
仕出し 藤 市
平町二丁目
萬洗張 小松崎本店
平町三丁目
なかや洋服店
平町三丁目
藤居勝武商店
平町三丁目
梅原利三郎
平町三丁目
大勝園茶舖
平町三丁目
大黒屋勝次商店
平町三丁目
丸はん商店
平町三丁目
平砂糠商組合
平町四丁目
伊勢屋商店
阿部 唯次郎
平町四丁目
關内藥局
平町四丁目

謹賀新年

磐城柔道有段者會長
諸橋久太郎

磐城柔道同窓會長
關内正一

三猿文庫主
諸橋元三郎

平町 桐谷 文雄
平町 加藤 丈夫
平町 平旅館組合
平町 大橋 秀冬

衆議院議員
鈴木辰三郎
平町一丁目
常盤屋時計店
平町一丁目
坂本 紙店
平町二丁目
谷 口 樓
平町二丁目
三井タクシ
平町二丁目
西村屋藥局
平町二丁目
皆川 新一
平庶民金庫
平町二丁目
中野洋品店
平町二丁目
高島屋洋品店
平町二丁目

堀 藥 局
平町二丁目
仕出し 藤 市
平町二丁目
萬洗張 小松崎本店
平町三丁目
なかや洋服店
平町三丁目
藤居勝武商店
平町三丁目
梅原利三郎
平町三丁目
大勝園茶舖
平町三丁目
大黒屋勝次商店
平町三丁目
丸はん商店
平町三丁目
平砂糠商組合
平町四丁目
伊勢屋商店
阿部 唯次郎
平町四丁目
關内藥局
平町四丁目

平町で二度目の新年を迎分御國の爲めに駆け廻つた
へることになりまし。職らさぞ痛快の事であらう、
員生徒は私を理解して呉れなご子供のやうな考へも
父兄並に地方有識の方々は浮び出たのでありまし、
御同情下さるので、これ迄 滿洲國では目下、日本の資
大した氣遣い思ひもせず勤本と知識と技術とを最も必
務の出来まし事を、先づ 要とすといふことであり
年頭に當つて本紙を通じてまし。

磐城柔道有段者會長
諸橋久太郎
磐城柔道同窓會長
關内正一
三猿文庫主
諸橋元三郎

平町 桐谷 文雄
平町 加藤 丈夫
平町 平旅館組合
平町 大橋 秀冬

衆議院議員
鈴木辰三郎
平町一丁目
常盤屋時計店
平町一丁目
坂本 紙店
平町二丁目
谷 口 樓
平町二丁目
三井タクシ
平町二丁目
西村屋藥局
平町二丁目
皆川 新一
平庶民金庫
平町二丁目
中野洋品店
平町二丁目
高島屋洋品店
平町二丁目

堀 藥 局
平町二丁目
仕出し 藤 市
平町二丁目
萬洗張 小松崎本店
平町三丁目
なかや洋服店
平町三丁目
藤居勝武商店
平町三丁目
梅原利三郎
平町三丁目
大勝園茶舖
平町三丁目
大黒屋勝次商店
平町三丁目
丸はん商店
平町三丁目
平砂糠商組合
平町四丁目
伊勢屋商店
阿部 唯次郎
平町四丁目
關内藥局
平町四丁目

追吟

劍突坊

初日の出また新らしく鐵が殖え
勇敢に踏ん張り通す立志傳
鼻柱峰にさされる武勇傳
新妻になつてつゝしむ流行唄
新春だ屠蘇だ仇えてる羅漢民
勅題

佐川十寸夏

狂歌一九三五年警告

一九三五年ない氣なれど酔つて
ペイロシヤ注意屠蘇は飲むとも

狂歌 池邊鶴

自惚れの鏡が池に丹頂の
姿うつして見とれつる哉

狂歌 乙亥新春

非常時を突破ヒヤラと獅子舞の
はやしも勇む春ぞめでたき

へなぶり

初鶏の東天紅ではがらかに

御代の幕明く昭和十年
非常時の風が吹かふが吹くまいが

澄し切つてる日本の風

勅題の池邊の鶴も歌人も

首を伸して入選を待つ

大芝居うつ評判を前にして

裸休書の趣向あんまりきわど過ぎ
見る眼まぶしい金縁の額

定價札あれこれの草臥れて
何にも買はずデパートを出る

花柳病おどく語る容体を
百も承知で醫者の微笑

迎新所感

熙 宋

非常時！愈々一九三五、六年に備へる國民精神作
六年の危機に一步を踏入れ興に外ならないが世は擧げ
た、即ち本格的非常時第一で歐米渴仰、物質萬能の時
の年を迎へたのである。近代となり我國固有の精神文
來一旦緩急あらば？と稱へ化又は生活様式を抛棄しつ
られたのは實にこの「三五」ある事は誠に歎はしい次

第と云はねばならない。世るのである。そして「おめ
界に君臨すべき我アシアのたう」の言葉が心の底か
盟主、日本國民である我々ら言ひ交はし得るのである
のうちに泰平になれ味増 一、二年前より非常時！
汗の味を忘れて、歐米渴仰と云ふ言葉が使はれて來た
を最善と心得る不逞者の現が、過去を顧みて内外の非
はれるのは、精神文化の墮落時、十年に一度二十年
落と云はねばならぬ。こゝに一度宛見舞はれて來て居
に於て國民精神を作興せしめたのではあるまいか。要は
むるの必要を強調して己ま平常の心掛平常の用意が非
常を克服するのであらう。

古來我國には神道、佛教とそれは精神の力、剛健な
精神文化啓蒙の道があつた精神力これが非常に際して
が、歐米崇拜、物質萬能の狼狽し處置に苦しむ醜態を
弊は、遂にその極點に達し演じさせぬ力なのである。
神佛を蔑ろにする輩の多い唯困る事にはこの用意、準
のは遺憾とする。これを獨備のならぬに、いきなり非
り爲政者のみに罪を歸せし常時に遭遇したのであるか
めんとするが如きは言語道々如何にしても緊陣一番非
斷で國民全體が覺醒し神佛常克服を計らねばならぬ。
を再認識せねばならぬ。年改つた今この精神力を必
今茲に昭和十年を迎へて 要とする。

磐中同窓會

新年會開催

とは云へ天を仰いで歎き地
に俯して悲しみ唯救ひの來
るを待つ如き卑屈に墮する
事は恐れねばなるまゝ。親
自らの運命は自ら開拓する
勇敢に猪突式にこの希望を
期日 一月三日午後五時
以てはじめて期かに笑ひ得
會場 平町住吉屋本店

謹賀新年

澤 渡 村

材木商 菅野源重

仙臺市東九番町三二

中野節夫

鶴岡市最上町甲七二

遠藤平太

中町田 中島寫眞館

中町田 中野齒科醫院

石川亭

平藝妓屋組合

平料理屋組合

御料 八千代

堀江工業株式會社

平町才穂小路 江口忠一

平町才穂小路(田町大通リ)

ライト寫眞館

平町土橋 原齒科醫院

平町古鍛冶町 山崎合名會社

平町古鍛冶町 好間軌道株式會社

平町研町 阿部材木店

平町長橋町 中村政

平町南町 野内建材商店

磐城中學校交誼會

石城郡内各小學校長會

石城郡町村長

石城郡銀行組合

磐城鐵工機械同業組合

謹賀新年 平新報社

山野邊庄吉 安藤信義

湯本町天王崎 芳賀良太	湯本町 比佐源藏	湯本町會議員 木村德三郎	衆議院議員 比佐昌平	錦村助役 高木武一郎	錦村消防組頭 山崎登	錦村 大平菊次郎	植田町 小野保	植田町 森合齒科醫院 森合芳男	植田町 鈴木眼科醫院	植田町 鷺清昇	石城郡農會副會長 植田町 植田水力電氣株式會社	謹賀新年
白鳥鑛泉 春木屋	湯本温泉旅館 湯本組合	湯本町 入山探炭株式會社坑務所	銘酒花春 四ッ谷酒店	湯本町 高濱兼義	湯本區會議員 鯨岡久一郎	湯本郵便局長 鯨岡潔	松柏館 比佐榮一	湯本町 鈴木康平	入山探炭會社 大越新	入山探炭會社 若松修一	湯本町 村上六平	
小名濱町 澄川康哉	小名濱炭礦事務所 福來總十郎	小名濱町 小野晋平	鹿島村 江尻寅次郎	鹿島村會議員 鈴木一男	玉川村會議員 宮內久枝	玉川村會議員 齋藤晃	高野鑛泉 神泉亭	高野鑛泉 中野湯	內郷消防組頭 佐藤三平	內郷村白水 宗像炭礦	內郷村白水 五十嵐炭礦業所	湯本信用無盡株式會社
赤井村 福島炭礦	好間村會議員 強口唯七郎	古河石炭鑛業株式會社 好間鑛業所	好間村 萩原申八	好間村 小田吉治	四倉町 佐藤仲	四倉町 木村醫院	四倉町 新妻盛	豐間村 大敷事務所	豐間村 濱屋旅館	御料理仕出し 山口屋旅館	藤社商店 高木忠治	